

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 29 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21580269

研究課題名（和文） 農業における人的資源開発に関するキャリア・サイクル論的研究

研究課題名（英文） Research on the human-resources development in agriculture, using the theory of career cycle

研究代表者

香川 文庸（KAGAWA BUNYO）

京都大学・農学研究科・准教授

研究者番号：10291238

研究成果の概要（和文）：本研究では、①非農家子弟の農業参入や定年退職者に代表される高齢者の帰農、Uターン、Iターン就農、②既に農業に従事している者による関連事業（農産物加工や販売など）への事業展開、③農村女性の活動範囲の拡大、などに着目し、その行動原理を解明するための理論的枠組みを「キャリア・サイクル」、「ライフ・サイクル」という観点から構築した。また、その成果を活用して、多様な農業者の多様な取り組みに対する支援のあり方について論じた。

研究成果の概要（英文）：In this research, we built the theoretical framework for solving the following problems, using the concept of “career cycle” and “life cycle”. 1) New entry to agriculture and elderly people’s return to farming, 2) Business deployment in agriculture, 3) Rural women’s activity, etc. Furthermore, we also examined the supporting system to a farmer’s career development.

交付決定額

（金額単位：円）

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 2010年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 2011年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 年度     |           |         |           |
| 年度     |           |         |           |
| 総計     | 3,200,000 | 960,000 | 4,160,000 |

研究分野：農学

科研費の分科・細目：農業経済学・農業経済学

キーワード：キャリア・サイクル、新規就農、非農家子弟、定年離職就農、キャリア支援、キャリア開発、定住

## 1. 研究開始当初の背景

急激な少子高齢化の進展、農業を取り巻く環境条件の悪化、先行き不透明感などの様々な要因が絡み合う中で、農業の担い手、後継者不足が深刻な問題となってきた。

こうした中で、多様な経路から農業に参入する非農家世帯の新規就農者、Iターン、Uターン就農する高齢者（定年退職者他）や他産業での仕事を辞めて農業に参入する中高年などが注目されている。また、従来は「就農＝個別の農業経営を自ら起業すること」と

というイメージがあったが、近年では農業法人への就職という形で農業に参入する者も増えてきている。

さらに、既存の農業者の中には、単なる農産物生産の枠を超えて、農産物加工や各種関連事業に取り組む者も出現してきている。特に農村女性の起業は最近の大きなトピックでもある。

このような農業者の多様化、農業者が取り組む事業の多様化などを統一的に扱うための理論構築とそれを用いた実証研究、さらにそうした農業者の支援のあり方を論じるための枠組みの提示と活用が、今後の農業の担い手問題を論じるためには必須であると考えられた。

## 2. 研究の目的

こうした背景を受け、本研究では以下の諸点を研究目的とした。

(1) 農業における人的資源開発を「キャリア・サイクル」という新たな概念・枠組みから捉え直すための理論的枠組みを構築すること。

(2) 農村という環境を基礎とした農業という産業において個人のキャリアが個人のライフ・サイクルをベースにどのように開発・形成され、それが個別農業経営や地域農業の発展とどのように関連し、どのように活用されていくのかを、個別のキャリアに焦点を当てつつ理論的・実践的に明らかにすること。

(3) 新規参入者に関しては、職業として農業を選択し、就農準備を経て就農・自立していくまでの過程を非農家子弟と農家子弟に分け、そこに存在する就農行程やビジネス・モデルの差を重視して考察し、他産業への就職と比較した就農の特殊性やビジネスとして成功するための条件を明らかにすること。

(4) 他産業に従事していた者が就農した場合に、前職で培ってきたキャリアが農業にどのように活かされるのか、それはどのようなスキルであり、どのような条件下で実現するのかを探ること。

(5) 農業に従事している者が関連産業に事業展開しようとする際に、必要となるスキルや技能はいかなるものであるのか、それをどのようにして習得すべきであるのかを方向づけること。

(6) 定年帰農者や高齢者の就農に関し、いわゆるライフスタイル型就農が地域農業へ如何なる形で貢献出来るのかをファイナ

ル・キャリアという要素も加味しつつ、明らかにすること。

(7) 個人のキャリア開発・形成における民間や公的な支援方策についても、その論理や具体的なあり方について明らかにすること。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究の特色は、就農や農業関連事業への職域の拡大を「キャリア」、「キャリア・サイクル」というこれまでにない視角から捉えることになる。そこで、文献研究を中心とした理論的・演繹的な研究と実態調査から得られる情報やデータの分析・解釈という帰納的な研究方法を組み合わせることで課題・目的への接近を試みた。

(2) 理論面では、一般経営学、一般経済学、人材開発論、キャリア論などの領域においてキャリア開発・形成、キャリア活用がどのように論じられているかを整理し、それを農業分野で援用可能な形にモディファイすることに取り組んだ。

(3) 実証面では全国各地で展開しているユニークな事例（新規就農者の受け入れ事例、既存農業者による業務拡大や六次産業化、農村女性による起業、高齢者が支える組織的な農産物生産、就農をサポートする取り組みや各種支援団体等）への実態調査を積極的に行い、ヒアリングや資料収集に努めた。

(4) 理論研究から得られた新たな知見を事例の実態に照らし合わせて試しながら精緻化することで、「農業キャリア論」、「農業キャリア支援論」とでもいべき領域の理論的枠組みを構築した。そして、さらにその成果を援用した実証分析を試み、農業分野におけるキャリア開発やキャリア支援のあり方に接近した。

## 4. 研究成果

本研究の主な成果、社会的な貢献は以下のようなものである。

(1) 農業者の就農、定着、成熟、発展（他関連部門への拡張も含む）という一連のプロセスを「ジョブ・エントリー」、「基礎訓練」、「キャリア・アップ（専門技能の拡充）」、「キャリア・シフト」といった観点から捉えなおすための理論的枠組みと方法論を構築・提示した。

(2) 特に、農業の場合、ジョブ・エントリーが独特であることを示した。通常の企業であ

るならば、入社し、仕事に就いてから基礎訓練が行われる（社内研修など）が、農業の場合、実際に就業する以前の段階で一定程度以上の訓練が行われていなければならない（生計維持という観点から）ことを農業経営の経営的な特殊性から導出した。

(3) そのために、いわゆる農業法人における研修事業やインターンシップといった就農支援制度が必須であることを提示した。そして、こうした支援は農業の現場と農業を志す者のマッチングを確認するためのリアリティテストとしても有効であることがわかった。

(4) また、これとは別の形態の支援として、就農後、一定期間の資金援助が欠かせないこと、家族で就農する者に対しては住宅や住環境に関する情報提供支援が非常に大きな意味を持つこと示した。

(5) 農外からの新規就農者（若年層、定年退職者、離農就農者等を含む）に関しては、ジョブ・エントリーに際し、集落社会へのエントリーが必須の条件であることを明らかにした。この点は、農業生産がいわゆる「ムラ社会」で行われることに起因する特別な事柄であり、単に技術的な支援や起業時の資金的な支援とは別に、「集落にエントリーする」ための社会的・精神的な支援が欠かせないことがわかった。

(6) 従来、農業経営の経営発展は経営者能力論の分脈で語られることが多かったが、それをキャリア・サイクルという観点から捉えなおすことで、各種のスキルアップやキャリア形成の各段階を個人のライフ・サイクルといかにして（時期的、資金的に）すり合わせていくのが重要な意味を持つことを再認識することができた。

(7) 本研究で構築した理論的なフレームワークを活用して、新規参入者、高齢就農者、離職就農者、農村女性、他事業に展開している農業者などの行動原理を整理しなおした。これにより、これまで個々別々に論じられてきた多様な農業者の行動や成長等を一連の統一的な視覚から分析することが可能になったと考えている。

(8) 個人がキャリアを形勢・開発していくキャリア・サイクルを個人のライフ・サイクルと絡めつつ理解することで、それら各段階において如何なる支援策が必要となるのか、それは誰がどのようなタイミングで行うべきであるのかを明らかにすることができた。また、そのことの妥当性、正当性に関する論

点を提示した。

(9) 本研究で得られた成果を出発点として、今後「農業キャリア論」、「農業キャリア支援論」という新たな研究領域が生成・展開していく可能性が高まったといえる。本研究はその礎石としての意味を有するものと確信している。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- ① 香川文庸・川崎訓昭・山川良太、京都の農業・農地・担い手の姿、農政研究資料、第11-125号、2012、3-61
- ② 仁平章子・伊庭治彦、女性農業者のダブルキャリア組織の機能と管理、農業普及研究、査読、第15巻第2号、2010、63-71

〔図書〕（計12件）

- ① 伊庭治彦、農業へのUIターン、小池恒男・新山陽子・秋津元輝編、キーワードで読み解く現代農業と食料・環境、昭和堂、2011、188-189
- ② 桂明宏、六次産業化とグループ化で成長する農業生産法人、高橋信正編、やっぱりおもしろい！関西農業、昭和堂、2011、36-46
- ③ 香川文庸、農業者のキャリア形成とキャリア支援、小田滋晃・増淵隆一編、農業におけるキャリア・アプローチ、農林統計協会、2009、214-230
- ④ 香川文庸・長命洋祐、農業インターンシップによるジョブ・エントリーに向けたキャリア支援、小田滋晃・増淵隆一編、農業におけるキャリア・アプローチ、農林統計協会、2009、288-300
- ⑤ 香川文庸・川崎訓昭、企業のスピノフによる前職非関連・連結型キャリア・シフト、小田滋晃・増淵隆一編、農業におけるキャリア・アプローチ、農林統計協会、2009、133-145
- ⑥ 小田滋晃、農業者のキャリア形成と活用における課題、小田滋晃・増淵隆一編、農業におけるキャリア・アプローチ、農林統計協会、2009、1-14
- ⑦ 小田滋晃、農業におけるキャリア・アプローチの意義と課題、小田滋晃・増淵隆一編、農業におけるキャリア・アプローチ、農林統計協会、2009、325-336
- ⑧ 小田滋晃・田城志明・長谷祐、定住型新規就農支援によるキャリア形成、小田滋晃、農業者のキャリア形成と活用における課題、小田滋晃・増淵隆一編、農業におけるキャリア・アプローチ、農林統計協会、

2009、90-104

- ⑨ 小田滋晃・本田恭子、定住型新規就農に向けたキャリア支援、小田滋晃、農業者のキャリア形成と活用における課題、小田滋晃・増淵隆一編、農業におけるキャリア・アプローチ、農林統計協会、2009、313-325
- ⑩ 桂明宏、ファイナル・キャリアとしての農業選択の主体的意味と特徴、小田滋晃、農業者のキャリア形成と活用における課題、小田滋晃・増淵隆一編、農業におけるキャリア・アプローチ、農林統計協会、2009、180-188
- ⑪ 伊庭治彦、キャリア・シフトをとおしての農業の革新、小田滋晃、農業者のキャリア形成と活用における課題、小田滋晃・増淵隆一編、農業におけるキャリア・アプローチ、農林統計協会、2009、105-112
- ⑫ 伊庭治彦・仁平章子、事業の多角的展開と女性農業者のキャリア・アップ、小田滋晃、農業者のキャリア形成と活用における課題、小田滋晃・増淵隆一編、農業におけるキャリア・アプローチ、農林統計協会、2009、166-173

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

香川 文庸 (KAGAWA BUNYO)  
京都大学・農学研究科・准教授  
研究者番号：10291238

### (2) 研究分担者

小田 滋晃 (ODA SHIGEAKI)  
京都大学・農学研究科・教授  
研究者番号：70169308  
桂 明宏 (KATSURA AKIHIRO)  
京都府立大学・生命環境科学研究科・  
准教授  
研究者番号：90233767  
伊庭 治彦 (IBA HARUHIKO)  
神戸大学・農学研究科・准教授  
研究者番号：70303873

### (3) 連携研究者

なし